2015アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト 報告書

日本学校名[安城市立安城南部小学校] 担当教諭名[二村 彰久] (6年2組 38名)
交流相手国[セネガル]
海外学校名[Gossas Village] 担当教諭名[Abdou Acisse FAYE / 礒部 由美(JICA)]

■実施教科・時間数について教えてください。

	教 科	単 元 名	時間数
アートマイルに関連した実施教科・時間数	総合的な学習の時間	つながろう 世界の仲間たち	70
	図画工作	壁画を描こう	6
	外国語活動	What do you want to be?	3

■作品について教えてください。

題 (テーマ)	From the different countries, For the same future
絵に込めたメッセージ	「国や地域の自慢」と「つながり」について描いた。中央に描いたジグソーパズルの地球には、「一緒に一つの地球をつくる」「自分の国を自分たちの手でつくる」という意味をこめている。地球から生えた木は、お互いの国の象徴的なものとし、この交流で芽生えた友情を、大きく育てようという思いを表している。両国の子どもたちの手をつなぐことで、心のつながりを表現している。

■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
・児童個々にパートナーを決めて交流を進めた。フォーラムの記事をプリントアウトし、交流の足跡を常に自由に閲覧できるようにしたことで、交流を深めようとする意欲が高まった。 ・フォーラム部・壁画部・体験部・国際郵便部の4部の「つながり実現委員会」を組織し、交流にかかわる仕事を細分化することにより、個々の役割が明確化され、子どもたちの主体的な活動につながった。	・セネガル側からの連絡が途絶えることが度々あり、時間を有効に使うことができなかった。また、当初、10 月に始まるとされていたセネガル側の新学期だったが、なかなか授業が始まらず、交流相手校を変更せざるを得なかった。 ・意思疎通が不十分で、テーマ学習の成果の交流を十分に行うことができなかった。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手国や世界に対しての意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
当初のアンケートでは、「外国人と友達になるなんて無理」と言っていた子どもたちだったが、自分たちにできることを考えながら取り組み、特に自分のパートナーとフォーラムを通じて仲良くなれたことから、「心は言葉や文化の壁を超える」ことを多くの児童が実感することができた。	以前、交流したインドとも国の事情が違い、戸惑いはあった。子どもたちの「仲良くなりたい」と願う気持ちの強さに驚いた。しかし、知識も技術も未熟なため、子どもたちの思いを実現させるための教師のサポートの重要性を改めて感じた。また、相手校の先生、JICA 隊員との価値観の共有も重要だと痛感した。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活 動 内 容	児童生徒の反応	実施教科等
自己紹介	9月～11月	・世界の子どもたちとつながる方法について考え、話し合う。 ・画用紙に自己紹介書き、フォーラムに掲載。 ・特技の披露なども含め、英語での自己紹介をビデオ撮影し、フォーラムに掲載。 ・セネガルの子 1 人に対し、日本の子 1～2 人のパートナーを決めた。	・当初は、「外国の子と友達になるなんて無理」と言っていたが、話し合いを重ね、「やってみたい」という意欲が高まった。 ・ALT に自己紹介の仕方について自主的に質問する等、主体的に取り組んだ。 ・セネガルからなかなか返事がなく、不安な様子であった。	総合30 外国語3
テーマ学習	7月～10月	・安城の自慢について、夏休みの課題として一人調べに取り組んだ。 ・安城の自慢紹介カードをパートナーに書き、壁画とともに送った。 ・修学旅行、安城七夕まつりの様子の紹介ビデオをフォーラムに掲載した。	・安城の自慢を紹介するにあたり、インターネットや書籍で調べ学習を進めるうちに、これまで知らなかったことが分かり、地域への愛着が強くなった。 ・日本の文化が分かるプレゼントを送りたいと願い、新聞紙でかぶとを折った。	総合30
構図決定	12月	・学級全体で描くものを決め、つながり実現委員会壁画部構図課がアイデアスケッチを作成。再度学級で修正点などについて話し合い、構図を決定した。	特に、「つながりを表すもの」に関して、話し合いが盛り上がり、学級総意の構図となった。	図工2 総合4
壁画制作	12 月	・壁画部構図課が下絵、ペイント課が配色案検討、色塗り指示。 ・グループに分かれ、学級全員で色塗り。	全児童が真剣かつ丁寧に色塗りに参加。構図の検討から色塗りまで、全員で取り組んだことを誇りに感じ、壁画への愛着は深いものとなった。	図工4 総合2
鑑賞・振り返り	3 月	・記念撮影を行い、フォーラムに感想を掲載。 ・フォーラムを通じてパートナーにラストメッセージを送った。	・絵を見てつながりを実感できた。 ・卒業式の式場に展示し、多くの人たちに見てもらえることを喜んだ。	総合4

■学習目標（つけたい力）と成果（ついた力）について教えてください。

「目標」 先生が指導に当たって重視したことを ABC で記入 （A：特に重視した B：重視した C：特に重視しなかった）

「成果」 先生の手応え （5：とても身についた 4：身についた 3：どちらともいえない 2：あまり身につかなかった 1：身につかなかった）

学習目標・つけたい力	目標	成果	成果についてそう感じた場面・理由
自文化の理解	B	4	「安城の自慢」について調べ学習を進めるうちに、新たに分かったことを誇りに思い、地域への愛着を深められた。
異文化の理解	B	5	自分たちの生活との違いに驚きながらも、セネガルの大切な文化と認め、尊重することができた。心は文化の壁を超えることに気付いた。
コミュニケーション力（説明・共感・英語）	B	4	パートナーと仲良くなりたい、パートナーのことをもっと知りたいという思いをもち、に自分たちの文化や生活について、進んで伝えた。
情報活用能力（情報収集・発信）	B	3	安城の自慢について、インターネットや書籍で調べ学習を行ったが、現地調査やインタビューなどの活動を十分に行うことができなかった。
人間関係をつくる（学級内・交流相手）	A	5	セネガルの友達との「心のつながり」を求め、手だてを学級で話し合った。特に、連絡が途絶えた時は、真剣に話し合い、窮地を乗りこえてきた。
協働する力（役割分担・協力）	A	5	4 部 9 課の「つながり実現委員会」を立ち上げ、活動を分担することで、個々の役割が明確になり、児童の自己有用感につながった。
学習を追究する意欲	A	5	「セネガルの子とつながりたい」という目的意識をはっきりともち、そのための方法について主体的に考え、行動する姿があらゆる場面で見られた。
表現力（伝えたいことを絵で表す）	B	4	特に、「つながり」の表現のしかたについて、具体案を個々やグループで真剣に考え、話し合いにより学級の全員が納得する構図となった。
作品を鑑賞する力	B	5	初めて筆を使ったセネガルの子たちの努力や絵にこめた思いを感じ取り、共に描き上げた喜びと、心のつながりを実感することができた。